

受け継ぎ育まれる年間行事

医療法人 松和会 門司松ヶ江病院

行事の持つ意味

季節には二十四節季があるように、当院では、その季節にあつた年間行事が毎月行われています。

集団療法を基盤とした作業療法を当院では実施しており、作業療法の一つとして年間行事の準備が行われ、この体験や経験の一つ一つが治療に結

びつくように私達は企画運営を行っています。

年間行事は、季節を身近に感じることができ、ご家族の皆様はもちろん地域の皆様にも来院していただき、障害という病気の理解を深めていただく良い機会となっています。

一つの行事が終わると、次の行事に向けて準備が始まります。患者様も準備をする過程の中で、いろいろなことを体験したり経験したりします。感じることもたくさんあるのではないのでしょうか。過去の楽しい体験を追体験し、あるいは、経験できなかった経験をする機会にもなります。経過を大切に、当日参加できなくてもその行事には何らかの形で関わられるよう、患

者様との日々を大切にしています。

当院の年間行事

平成15年度の行事は、4月のお花見で始まりました。患者様、ご家族、スタッフ全員の参加で、病院から歩いて15分の水源地に、栄養課の手作り弁当を持って行きました。晴天と桜の花に恵まれ、穏やかな一日を過ごせたのではないかと思います。お花見にいけない患者様にも桜の花を見ていただきたいという思いから、各病棟では桜のクラフトもつくりました。

5月には、第42回の開院祭が行われます。開院祭では、模擬店を出店します。お客さんになったり、お客さんを迎え入れることは、社会生活の擬似体験にもなります。皆で模擬店をつくりあげ、協力したり協調することで人間関係の学習をする機会にもなっています。

6月の3分スピーチ大会は自己表現の場として、テーマに基づいて

原稿を書き、舞台の上で発表します。7月の七夕演芸会では、各病棟からの出し物も幅広く楽しめますが、準備の一つとして行われる七夕の笹飾りや願い事を短冊に書くことは、何歳になっても童心に戻れるようです。

8月には、夕刻より盆踊り大会。患者様もスタッフも浴衣を着ることが楽しみの一つです。



お花見



運動会

夏のもう一つの行事では、院外にてキャンプを行います。

9月は敬老演芸会で、当院に入院されているお年寄りと併設施設の老健に入所されている方に楽しんでいただくこと、出し物の内容もお年寄り向けにしています。

10月は運動会。近年高齢化が進み、競技の内容も幅広く、世代を超えたものになります。ご家族も来院され、親子で競技に参加される姿を見ると、治療にはご家族が不可欠であることを、毎年再認識します。

11月は、世間よりも少し早くM H K 紅白歌合戦（M：門司松ヶ江、H：ホスピタル、K：カラオケ）を行います。予選で選ばれた方が歌手になりステージに上がって歌います。応援にも力が入り、出場した方にとってはとても印象深い思い出になるようです。

12月はクリスマス演奏会とクリスマスバイキングがあります。バイキングでは、当院の栄養課が腕を振るいませます。各病棟で工夫を凝らしたクリスマスパーティーは、年末に行われるお餅つきとあわせて、一年の締めくくりになっています。

1月には凧あげ大会、2月にはデュエット大会、3月には雛祭り演芸会：：そして、一連の輪をつくり、繰り返し行われる行事とともに一年間を大切に過ごしています。

基本理念に基づいて

平成13年には、開院40年を記念して、「共に生きる」をテーマに、40周年記念誌を作成しました。写真を記念誌に掲載し、開院以来示されている「患者様のことを第一に考える基本理念」を、その写真一枚一枚から感じ取っていただけたのではないのでしょうか。



開院祭



キャンプ



盆踊り

精神障害という理解されがたい病気で悩んでいる人達との心のふれあいを通じて、その純粋な心、ひたむきな努力を受けとめ、「自由と尊厳と生産性の回復」に全職員あげて精いっぱい援助をし、病院の門を社会に大きく開いて奉仕いたします。この治療の理念は、年間行事そのものではないかと思えます。

基本理念に基づいたこの年間行事を、病院の宝物として受け継いでいきたいと考えています。